

令和3年度第1回 釜石市子ども・子育て会議開催結果（概要）

1. 日 時 令和3年5月27日（木）10:00～12:20

2. 場 所 釜石市青葉ビル 研修室

3. 出席者等 <出席委員 14人>

藤原伸哉委員、三浦綾委員、鈴木ゆりえ委員、藤井茉依委員、菊池啓子委員、
三浦昌子委員、佐々木幾子委員、柳下啓子委員、八幡恭子委員、佐々木春美委員、
伊東公一委員、大槻忍委員、福成菜穂子委員、黍原豊委員

<市側出席者>

保健福祉部長 小笠原 勝弘

子ども課長 千葉 裕美子

子ども課 主幹兼子ども福祉係長 樋岡 悅子

次世代育成係長 菊池 喜子

次世代育成係 主事 川原 澄玲

4. 傍聴者 0名

5. 経過

(1) 開会

千葉課長が定足数を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。

(2) 委員長挨拶〔要旨〕

活発な意見を出していただき、それをなるべく市のほうにとりあげていただけるように皆さんの意見を追加させていただこうと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(3) 議事

①特定教育・保育施設の利用定員の変更について

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明。承認された。

②第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

議事について、配布した資料に基づき、事務局から説明。承認された。

③釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について

議事について、事前に配布した資料に基づき、事務局から説明。承認された。

④第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画の重点プロジェクトの進め方について

これまで、「第2期釜石市子ども・子育て支援事業計画」の3つの重点プロジェクトについて、ワークショップ等を行った。委員から出された意見をプロジェクトごとに（1）将来像、（2）指標と役割分担について事務局で取りまとめ、この取りまとめた資料に基づき委員の方々から意見等を伺った。

各プロジェクトごと様々な意見が出たが、協議する時間が足りず結論がまとまらなかつたため、事務局で再度意見を集約し、メールやFAXなどで委員と協議していくこととなった。

⑤その他

・令和3年3月議会にて「釜石市すこやか子育て基金条例」の制定について可決された。この基金は主にふるさと寄附金を活用する予定である。

- ・今年度の事業として、心豊かな子どもの育成に資することを目的とし、子どもに自主性及び創造性を身に着けさせるような地域の自然環境を活用した遊びを提供する事業を実施する団体へ「釜石市自然遊び場事業補助金」を交付することとした。この子ども・子育て会議でも議題となつた「根浜あおぞらパーク」などの事業に対して補助金を交付する予定でいる。

(4) その他

- ・子どものマスクの着用について
- ・岩手県立釜石病院の分娩休止について
- ・次回会議日程についての説明（秋頃を予定）

(5) 閉会

6. 主な発言

(1) 釜石市幼児教育振興プランの進捗状況について

- コロナの影響で講座や親を集めたイベントが出来なくなっているのは致し方ないとは思うが、やらなければやらなくていいものなのか、それともどうにかしてやるべきものなのか。
→ 講師が来ることが出来ず実施できなかつたのもあるが、保護者に伝えたい生活習慣の定着について、広報紙にイラストを使つたり、わかりやすくお知らせしたり、パンフレットを作成し配布するという形では実施している。一方で、対面で実施した際のような効果はまだ難しいと思う。あおぞらパークさんで「もりのようちえん」のようなイベントに付随して実施する方法もやっている。工夫してやっていきたい。
- こういった新型コロナウイルス感染症の時こそ不安に思つてお母さんたちとかたくさんいると思うので、色々なツールを使うことを検討いただきたい。
- 釜石市でもLINEを使って情報を入手できるようになってきた。子育て情報だけを拾える手段があれば便利だなと思う。釜石市のLINEでは、他の課に比べて子ども課の情報はたくさん入ってくるなと思って見ている。お母さん方に使ってもらえるよう、もっと発信しなければいけない。一方で、お母さんたちには、ネットの世界だけでなく、出かけられない環境だからこそ、土日は子どもたちを自然環境に連れ出して、できるだけ一緒に過ごしてほしい。
- SNSを使った情報発信、素晴らしいと思う。自分が関わる東京や大阪の会議もzoomを使ったものになつた。しかし、最初の1、2回目は画面がない、音声が聞こえないとかで参加できなかつた。できるかどうかは別にして、市で子ども関係に関わらず、使い方動画を貼り付けたらどうか。LINEがわからない人もいる。
- 今の世の中、便利なものはできたが使える人と使えない人と分かれている。分かりやすい例が、コロナワクチンのインターネット予約。80代90代の高齢者は分からぬ。一人ひとりがどれを選択して向き合うか、一人ひとりに大きな課題。必要ないと思う人は使わない。これは簡単だと思うものがあると確かに入りやすい。

(2) 第2期子ども・子育て支援事業計画の重点プロジェクトの進め方について

①情報発信プロジェクト

- アンケートを実施するとなると、それにかかる労力がたくさんいる。アクセスしてない人のほうが子育て世代がたくさんいると思うし、数字で言われても説得力がない。実際の生の声を拾つた方が、数字では伝わらない部分を伝えることが出来るので、努力をした方がいいと思う。

- 数字だけ羅列してあると冷たい印象。さわりだけ見てあとは見ない人も結構いると思う。コメントや文章であったかみのあるものを盛り込んでみる手もありだと思う。
- 子育ての悩みの前にコロナの悩みが生活に直面しているような状況。SNS を使った発信について話題が出たが、もしかしたら子育て世代は人と人とのつながりの方を求めているかもしれない。
- 時間がない人たちにアンケート調査をやるというのはすごくハードルが高い。だから、乳幼児検診などに結び付けて実施するのはいいと思う。
- 配信する情報が子育てに関わっていない人が配信すると、的外れな情報になりかねない。お母さんたちが自分たちで配信する形を作ってもらえばいいのかなと思う。
- 子育て支援センターに遊びに来る子どもはそんなに問題として見ていないが、お母さんたちが居場所がなくて行き詰っていると感じている。子どもよりお母さんに寄り添うことが重要なのかなと感じている。
- あおぞらパークや子育て支援センターに子ども課が来たり他の団体が来て困っているお母さんたちの声を聞くようなワークショップとかがあれば保護者は来てくれるかも。
- 情報発信は本当に難しい。どうやったって興味ない人は絶対に見ない。子育てに追われていたら、なおさら見ない。子育てに特化したポータルサイトという話があったが、情報が細分化されると逆に探すのが大変。ワクチンに関することなど釜石市からの情報は一元化されているほうがいいと思う。
- 先ほども話があったが、乳幼児検診に来たお母さんたちに LINE の QR コードを載せてパンフレットを渡すとか、同時に悩みがないですか声掛けをして相談先を教えてあげるとかが必要だと思う。どうしても紙媒体だと日常に紛れてしまって見ない人は見ない。
- ポータルサイト作成について、市民の役割は SNS や口コミで発信するとあったが、お母さんたちが本当に知りたい情報はすごく怖い先生があそこの園にいるとか、あの保育園は厳しいとかゆるいとかだったりする。でも市役所や民間が連携してやっていたら、多分そういうのは書けないし、ありきたりな広報的なものしかできない。いい評判すらも書けない。
- 民間に委託して、リアルな声を聞く匿名でも誰でも参加できる掲示板にするのか、チェックが入らない情報が載せられるのはいいのか、とかそういうところを今年度検討していければいいと思う。
- アンケート調査について、国のコロナに関するアンケート、たとえば 3 分でできるようなアンケートだとより集まりやすいかなと思った。また、情報発信について、興味のない人、忙しい人へ興味をどう持ってもらうかが難しいと思った。
- 情報発信について、発信する話ばかりになっているが、情報を受ける力、受信側のケアという視点もあってもいい。将来的に誰でも情報にアクセスできる状態にするとか。
- 困難さがある家庭だと情報を受けるのも難しかったりする。支援センターで登録の仕方と一緒にやってみるとか、母親発信でお手伝いするサポートーがいればいい。
- 満足度のところで、支援センターで集まっているときに職員さんが入って吸い上げるようなヒアリングシートを渡すとか、提出して、改善して、また提出して、違ったとか繰り返すことで、数字にもつながるのでは。
- 携帯が出る前の時代は、タウン誌だったりお友達同士の集まりだったり黙ってても情報がふわふわとあった。行政で作った情報ではなく、お母さんたちで情報発信をしてほしい。何人かのご意見あるお母さんたちと発信していこうという力がこの会議から生まれてほしい。

②遊び場開拓プロジェクト

- 市内に公園は何か所あるのか。

→遊具がないところも含めて大小さまざま。約 100 か所。

- 市民としてなんとなく、100 か所も必要なのかな。市内を車で走っていると公園に誰もいなかつたりする。整備という点では必要かもしれないが、地域に利用されるものに整理をしていくことも大切だと思う。

- 県立病院の保育所では松倉グラウンドまで散歩に行くが、その間に 4 か所くらい公園がある。そこに一個ずつ違う遊具があるので渡り歩きながら散歩している。公園をひとつにまとめた方が楽しめる気もする。また、草刈も行き届いていなかつたり、鹿のフンがたくさんあり子どもたちが触らないように気を付けている。鹿が入らないようにフェンスを作ったり整備をしてほしい。

- 遊び場マップがあったと思うが、今はあるのか。

→震災後に公園がなくなってしまったときに当時、民間の方々や支援に入ってくださった方々が歩いてマップにしたもの。データとしてはあるが、更新はされていない。市の公園だけでなく民間の公園も掲載されている。

- 転勤族の方々から、公園が少ないと言われる。そのようなときに自分が知っている公園しか教えることが出来ない。

→鈴子の公園は今年度整備予定で、鶴住居にも立派な公園ができたので、子ども課としてはホームページや広報でお知らせできればと思っている。

- 市で公共ではない公園の安全点検もやってもらった方がいいのでは。

- 自分たちの遊び方での危険もあるので、保護者の方が遊ばせ方等を教えながら遊ばせてほしい。

- 遊び場について、昔はハードがあれば縦社会があったから遊び方も学べたと思うが、今の子どもたちには縦横のつながりが無くなってきた。ハードだけじゃなくてソフトの面で、プレリーダーとかがいて、社会性や創造性を学べるような方向性も必要になっていくのではないか。ソフトとハードが融合することでより心の育ちにつながるのではないか。箱物だけあっても若い人たちが戻ってきたいと思う魅力にはならない。

- 公園に子どもたちの遊具もあるが、高齢者の方々も利用している。その方々が使いやすいように環境美化をしていると思う。活用率があがらないと環境美化につながらない。遊び場プロジェクトで想像しているのは、釜石のシンボルティックな公園かもしれないが、子どもたちだけがターゲットではなく、高齢者や地域のニーズに合わせるべき。子ども課へ話すべきことではないと思うが。

③子どもと家庭を守るプロジェクト

- 家庭の経済状況と影響する部分があると思う。コロナ禍における経済状況とひとり親の家庭のフォローが明確にあった方がいい。また、相談の環境について、ありありと相談しているという形ではなく相談しやすい配慮が必要だと思う。

- ひとり親だと子どもを預けて相談というのは難しい時がある。連れていくと聞かれたくない話もあるので工夫や配慮が必要。

- 将来像だと「地域での子どもの居場所がある」とあるが、親がほっとできるような場所があるとか、親にも子にもオフィシャルではない場所が必要。先ほどの公園みたいに、子どもを見ていてくれる人がいて、親が休めるとか。